

上顎洞挙上手術におけるトラブルと対処法

(ラテラル&クレストアルアプローチ)

高橋 恭久

医療法人 慈世会 高橋スマイル歯科



私たちが上顎臼歯部領域にインプラントを埋入しようとした時、上顎洞への関わりを避けて通ることはできない。現在、上顎洞挙上手術は顎顔面外科の専門領域から多くの一般臨床家が手がける手術となっているが、上顎洞は個人差、左右差に加え、経時的变化や患者の全身状態によっても大きく影響される箇所である。そして多くの臨床家において、トラブルが起こった際の判断基準、対処法について認識不足のまま執り行われていることも現状と言えるだろう。

今回、上顎洞の解剖学的留意点について触れるとともに、確実に成功させるための外科手技の考慮点、ラテラルおよびクレストアルアプローチによるトラブル症例とその対処法も紹介し、低侵襲に行えるサイナスアプローチの可能性と適応基準について報告したい。

略 歴

1994年	日本歯科大学 卒業	2009年	鶴見歯科大学 口腔顎顔面インプラント 科非常勤講師
1998年	日本歯科大学大学院 卒業 歯学博士	2010年	韓国、Kyung Hee 大学口腔顎顔面外科 非常勤准教授
2002年	アメリカ・コネチカット大学ヘルスセンター補綴科 ITI スカラーとして留学	2011年	医療法人慈世会設立 理事長
2005年	ITI ワールドシンポジウム、ドイツ・ミュンヘン大会 にて Award を受賞	2014年	Global Academy of Osseointegration (GAO) International Core Member, Director of GAO Japan.
2006年	Art of Oral Science Japan (AOS Japan) 設立 最高顧問	2016年	一ノ塾設立 塾長

memo